

硬膜外麻酔を用いた無痛分娩についての説明および同意書

説明医師 _____ (年 月 日)

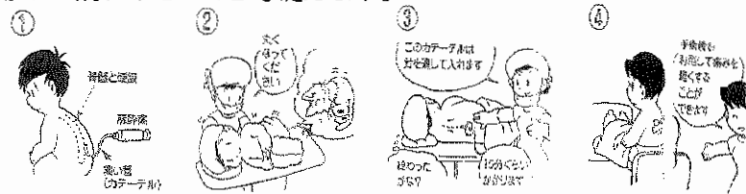
説明内容

● 無痛分娩の方法：

背中（硬膜外腔）に細い管（カテーテル）を入れて局所麻酔を注入する方法です。痛みだけを軽くし意識がはっきりしているので、産むときの実感があり産声も聞くことができます。

通常は、薬剤の調整で痛みが和らぎますが、効果が不十分である場合には硬膜外カテーテルを再度挿入する場合があります。逆に、麻酔を始めた後に、陣痛（おなかの張り）が全くわからなくなるほど十分効いている時や、分娩の進行状態によっては、一時的に麻酔を減量する場合があります。

※ 分娩の進行がとても早い場合、痛みが強く麻酔の体位がとれない時は、脊髄くも膜下麻酔あるいは鎮痛薬の筋肉注射・静脈内投与で痛みを緩和することを考慮します。



● 無痛分娩の長所：

1. 他の痛み止めの方法より効果が確実で、安全性は高く、児への影響もほとんどありません。
2. 痛みを取り除くことによりリラックスできるので、呼吸やいきみを上手に行うことができます。
色々な分娩経過があるので一概には言えませんが、痛みを軽くする結果、体力の消耗が少なく、産後の回復が早いといわれています。
3. 局所麻酔薬の効果で子宮口や産道の筋肉が柔らかく弛緩します。
4. 帝王切開が必要になった時も、同じ麻酔方法で行うことができます。

● 無痛分娩の注意点：

1. 麻酔が効いている間はベッドの上で過ごします。足にしびれ、脱力感が出ることがあります。一人での歩行はひかえて下さい。
2. トイレは原則ベッド上で行います。
3. 定期的に血圧を測定し、必要に応じて点滴で水分を補っていきます。

● 無痛分娩の短所・起こりうる問題点：

- ☐ 低血圧 ☐ 発熱 ☐ かゆみ ☐ 頭痛
- ☐ 局所麻酔薬の血管内誤注入（耳鳴り、口唇周囲のしびれ、痙攣）
- ☐ 局所麻酔薬のくも膜下誤注入（両脚がまったく動かさない）
- ☐ 鉗子・吸引分娩になる可能性が若干高まる
- ☐ 無痛分娩開始直後、一過性の胎児徐脈の可能性（急に除痛された場合）

※ めったに起こらない合併症：出血・感染（硬膜外血腫・膿瘍）、神経障害

同意書

この度、無痛分娩を実施するに当たり、説明を受け納得いたしましたので、その実施を承諾いたします。緊急事態が発生した場合や医学上の理由により、実施内容の変更や臨機応変の処置を受けることについても承諾いたします。

患者様本人 _____ (年 月 日)

保証人または立会人様 _____ (年 月 日)